

# 拙堂會報

## 第10号

2021年6月1日発行

発行所  
齋藤拙堂顕彰会

理事長 飯田 俊司  
津市一身田豊野1406-197

先賢・齋藤拙堂顕彰の意義

齋藤正和 1

顕彰会設立五十年・

会報十号を記念して 加藤龍宗 2

拙堂と河井継之助 飯田俊司 3

藩校有造館建学の流れ―その五―

督学 齋藤拙堂 中川禎二 4

齋藤拙堂顕彰俳句・短歌

津市長賞を受賞して

畠永加代・山口久美子 5

第四回齋藤拙堂顕彰小中学生書道展

稲垣武嗣 6

第五回齋藤拙堂顕彰俳句・短歌

第五回齋藤拙堂顕彰吟道大会開催

令和三年度拙堂会総会報告

9

## 先賢・齋藤拙堂顕彰の意義

顧問 齋藤 正和



現代は情報化社会と言われる。全ての人間の情報を吸い上げて構成されたビッグデータが世界を制するほどの力を持つ。しかし、情報の程度が高ければ高いほど國家の命運を左右するのは、今も昔も変わりはない。我が国においては、漢文を理解する力に依じて程度の高い情報が得られる時代があったのだ。前近代、東アジアにおける共通言語は漢文(古漢語)であり、域内

だけでなく西欧諸国との外交文書すら漢文が用いられた。当然、漢籍が読めてその上に漢詩文の作成に秀でておればその人物の権威は増す。齋藤拙堂は拔群の漢文力を駆使して、文政一三年(一八三〇年)、『拙堂文話』およびロングセラ―となる『月瀬記勝』を発表し一躍時代の寵児となった。当時のエリートの一員になったと言ってよい。三十四歳だった。二十四歳で津藩覺教官に採用されて津に移った拙堂は、それ以後、侍読として藩主の参勤交代に従って江戸に赴き天下の名士と交流した。なかでも渡邊華山主宰の尚歯会において、多くの知遇を得て、高度で稀少な西洋列強の情報を入手している。だが当時、徳川の御政道を惑わすような情報は嚴に慎むべきものとされた。しかし、激震が走る。

それが天保一一年(一八四〇年)に勃発した阿片戦争だ。これに触発されて拙堂は、天保一四年(一八四三年)『海坊策』を脱稿し、西洋列強がいかにインドやアジア各国、アメリカ大陸を制覇し植民地支配したか、その巧妙であくどいやり方を解析し、我が国の国防のあり方を地政学を踏まえながら政策提言した。拙堂は、受信力とともに発信力も極めて高かったため、全国の識者から面会を求められた。藩覺督学として文武両道を推進し天下の文藩たらしめただけでなく、藩主を補佐して藩政全般をリードする能吏としての評価も高かったからだ。

さて司馬遼太郎の『峠』が映画化されたという。そこに拙堂が登場しないことは驚くには当たらない。映画は制作者の恣意により、映像をもって観衆を洗脳し、プロパガンダとするものだからである。百田尚樹氏『日本国紀』にしても歴史が一面的にしか捉えられていない。漢文を十分理解できない著者にとっては、漢詩文で活躍した人々はいないも同然なのだろう。しかし、それによって歴史の真実が歪曲され、健気

に徳川に仕え、城下町として栄えてきた津藩の歴史もねじ曲げられることになるのではないかと。明治政府は長州ファイブに代表されるごく少数者が権力を独占し、旧幕府諸藩の能吏をそのまま出仕させることで、日本の近代化を自分たちだけで成功させたように見せかけた。富国強兵の名の下に廃藩置県、廃刀令などを強行した。実際には、薩長土肥などの下級武士がいきなり国のトップになることで、汚職や癒着がはびこっていた。だから西郷隆盛は理想とほど遠い姿に失望して下野し、多くの失業した武士の絶大な支持を得て西南戦争となったのだ。

明治とは、国の中枢が、旧幕時代における拙堂などの近代化の努力を葬り去り、他方で、人々の心は江戸時代を懐かしむという心情的には混沌とした時代であった。だから拙堂の名文だけは中学校の漢文教科書に必ず載せていた。だが、昭和の敗戦で日本を占領した米軍の政策は戦前の我が国の文化を全面否定するものであった。そのあたりを受けて拙堂の名は教育現場からも消し去られ、今やその名を知る人は郷土津においてすら稀であるという有様になった。

真実は、漢文を理解すればそこにある。しかし、悲観することはない。AIによって漢籍が読める時代もそう遠くはないと思えるからだ。我々にできることは拙堂の灯を掲げ続けることである。

## 顕彰会設立五カ年・

## 会報十号を記念して

会長 加藤 龍宗



コロナ禍お見舞い申し上げます。

拙堂顕彰会が設立され五カ年を迎えた、二〇一六年九月十九日の事であった、この年の八月十四日津市鳥居町比佐豆知神社境内に「拙堂先生山荘遺址碑」が建立された、茶磨山荘に隣接する地として選ばれたからである、翌年三月二十六日拙堂生誕二百一十年を記念して吟道大会が盛大に開催され、今年第五回目の記念大会を迎えるに至っている、この五年を顧みると津市偕楽公園内にある拙堂碑に説明板を設置、鳥居町公園に茶磨山荘跡碑が建立された、津市庁舎及び中央公民館には拙堂書及び説明書が展示され、市庁舎応接室には書と胸像が置かれ訪ねる人を迎えてくれている、津市内の公民館には「津の教育の原点、有造館と齋藤拙堂」(津市教育委

員会発行)が置かれて人々の手に渡っている、又拙堂に関わる「俳句・短歌」の募集及び、未来の星である子供達への「書」の募集・小学校への出前授業等による啓発も行われている、これらの啓蒙活動が出来たことは大変素晴らしいこととであります。

私は以前吟友と共に芭蕉が歩いた「奥の細道」(二百五十日、一千四百km)を訪ねたことがあった、歌枕の地に建つ句碑は言うに及ばず、各地(七ヶ所)における記念館にて立派に顕彰されている芭蕉にふれ、同じ伊勢人として誇り高く感じたものでした、即ち先人を顕彰するには次の二点が必要である事を学んだ、一つは顕彰する「拠点」である、自前のものが望ましいが共用のものでもよい、次にその人の資料である、これは人々によく理解されるものにならなければならない、この二点が顕彰会の今後の課題ではなからうか、会員の皆様のご指導、ご協力を引き続きお願い申し上げます。

さて旅人拙堂の詩を紹介しましょう、一八二六年京都大阪に遊んだ紀行文詩(京華遊録)の中から「平等院を過ぐ」です、宇治の平等院に遊び、一一八〇年平氏追討の兵を挙げた七十七才の源頼政(従三位)を称え、偲んで詠ったものです。

過二平等院

文武全才一世雄

白頭挙事戦功空

九源不起源三位

枯樹花開春寺風

(原文)

平等院を過ぐ

齋藤拙堂

文武全才『一世の雄』

白頭『事を挙げて戦功空』

九源『よの起き』源の三位

枯樹『花開く春風の寺』

(吟詠訳詩)

# 拙堂と河井継之助

理事長 飯田 俊司



最近司馬遼太郎著の「峠」で齋藤拙堂のことを知ったと友人から聞いた。三〇年位前に読んだこの本を読み返したところ、継之助が師と仰いだ拙堂の茶磨山荘を訪問した時のことが書かれていた。継之助は一八二七年に越後長岡藩の家臣として生まれ、郡奉行、町奉行として藩政の大改革を行い、最後に上席家老に上り詰めた。しかし戊辰戦争勃発に際しては、朝廷、旧幕府の何れに与することなく、「武装中立」の立場で内戦を阻止しようと努力するも失敗、北越戦争で長岡藩は官軍に敗れた。

一八五二年長期出張で江戸に滞在していた拙堂を訪ね、江戸遊学の継之助が「江戸きっての大儒」と言われた拙堂の門人となった。

一八五九年継之助は陽明学の師であり、瀕死の備前松山藩の財政を立て直した山田方谷に教

えを乞うため再度遊学の途中、師の拙堂に会うため津を訪れた。拙堂はこの時六十三歳、既に家督を長男に譲って隠居の身であった。「峠」によると、拙堂は海内屈指の学者、学問を持って累進し、家老に準じる待遇を受けていた。

四〇年間藩の学務と政務に就き、その業績は天下に名高い。特に経済に長じ、藩財政を一新した。また藤堂藩校(有造館)は拙堂生涯の中で最大の作品である。「名君に出逢ったこと、その理解の下に力の限り腕をふるい、思うがままに仕事ができただこと、功成なり名遂げて衆に惜しまれて退隠すること」により「たぐいまれな幸福を得た」と継之助に語ったとされる。しかし、継之助は拙堂を天下国家が安定している時こそ大いに能力を発揮できるが、乱世の雄にはならないとして拙堂の下を去った。

当時の日本は、一八五三年ペリー来航、一八五九年安政の大獄、一八六〇年桜田門外の変、一八六七年大政奉還、一八六八年戊辰戦争とまさに激動の時代であったが、拙堂が活躍するのは時代の流れが遅すぎた。

師弟関係にあった拙堂と継之助であるが拙堂は惜しまれて天寿を全うし、継之助は戦死と、全く異なる人生を歩んだ。

今尚、長岡では継之助が強引なやり方で戊辰戦争に巻き込み、長岡を焦土にしたという憎悪の念が一部に残っているという。

山田方谷は陽明学を自分の正義感に囚われて

間違った行動を起こしてしまうという危険性を承知しており、弟子にはまず朱子学を学ばせてから陽明学を教えた。継之助が拙堂からもっと深く朱子学を学んでいたらなあとも思う。

### 藩校有造館建学の流れ―その五

洋学を探究し地政学的国防を提唱

## 督学 齋藤拙堂

顧問 中川 禎二



前号で齋藤拙堂は督学として有造館を天下の文番と言われるまで充実発展させた中興の祖であることを述べた。更に私が敬服しているのは漢学者の常套を脱して西洋文明の学問まで精力を注いだ事である。有造館に洋学館・種痘館を創設し、蘭学者を招聘し、遊学生を江戸や長崎に派遣して医学・科学を習学させている。

このような拙堂の学校経営における開明的な

七が一日から、「峠」を映画化した「峠最後のサムライ」が公開される。拙堂とは全く違った生き方をした継之助に興味があれば観て下さい。

思想は拙堂が洋学をも勉強し、外敵に対する地政学的国防を提唱した論文を読めばよく理解できる。これについて、昭和五年発行の拙堂会報に梅原三千先生が拙堂の対外策、防海意見は、「海防五策」「制虜事宜」「輜軒書目」「地学舉要」などに書かれていると取り上げておられるので簡潔に紹介しておこう。

「海防五策」―拙堂が天保十四年（一八四三年）に書いたもので清国がイギリスに阿片戦争で侵略されたのを他山の石として書かれている。○第一策から第三策は、国防を考えるに現状の敵はロシアとイギリスである。西洋に倣って彼らに対抗できる兵器の充実だけでなく形勢を有利に導く戦略思考と常に軍事訓練が重要である。特に文化年間以来の外的襲来に日本人は恐怖心が先にたつて事態を正確に判断していない。

各藩は民治に努めて国勢を高めることに努めよ。もし民心が離反しておれば数百人の外敵でも防ぐことが出来ない。

○第四策では蝦夷地と琉球の防衛について論じている。西南諸島は日本の島民によって守れ

るが、蝦夷地は土地が广大で人口が希薄であるから心配である。ロシアに侵略される前に屯田兵を置くのが良策である。

○第五策―思想的侵略に対する防衛を論じている。外敵の武力侵略は一過性であり禍はむしろ小さい。それに対し文化的侵略はゆっくりと来るが禍は大きい。古今東西を問わず軍備だけに力を入れ、文化が空白で人心の主が不在であれば国は滅亡の危機に陥入るであろう。

以上が海防五策についての要点である。

○「制虜事宜」―嘉永六年（一八五三）ペリーが軍艦四隻を率いて浦賀に来航、開国を迫ったに対する拙堂の対処策である。攘夷による戦争は避け、ペリーの四か条の要求のうち和親の条件は受け入れ、交易等その他は五年間に限って認める。五年の間に国防を充実にして外敵に備えるという条件付き開国論を開陳している。

○「輜軒書目」―当時の蘭学者によって著述された外国地理書・見聞録・交易文書等で、五十三部百九十七巻と附図九種の大冊を拙堂は読破し、夫々を列記し解説した西洋の国情手引書である。西洋諸国・魯西亞・蝦夷の論文が多いが蒙古・朝鮮・台湾・暹羅まで及んでいる。拙堂の情報はロシアについては、間宮林蔵・大黒屋光大夫から直接聞き、アメリカはジョン万次郎（中浜万次郎）の話を土佐の

役人から報告を受けている。収集のアンテナは高く、それを実学に生かす能力は驚くべきものである。

○「地学舉要」―上下二巻で、上巻は各国の地理を記述し、下巻は歴史と多様な文化等を百科事典的に書いた興味深い地政学的書物である。

輜軒書目・地学舉要・について蘭学史家・高槻未知生は梅原三千に宛てた論考で「拙堂の外知識の研究とその宣伝は時代の尖端を行くものである。拙堂は漢学の人・文芸の人として高く評価されているが、新文明の移植者として光輝ある業績を立てた立派な偉人である」と称賛している。前号巻頭文で齋藤正和顧問も、「地政学的な考察の上で国防の戦略を練り国家を防衛するには武力によらない思想文化・精神・道徳・宗教・学問・教養が重要である」と言う拙堂の海防五策を大きく取り上げております。

西洋文明の学問まで探究し地政学的国防まで提唱した齋藤拙堂は、その高邁な識見が認められ幕府学問所昌平黌の教授に推挙されました。主君への恩義を優先して固辞し就任しませんでした。したが、この事実でわかるように日本を代表する郷土の誇りとする偉大な学者であります。

続きは又次号で

## 齋藤拙堂顕彰俳句・短歌

### 津市長賞を受賞して

富永 加代

山口久美子

#### 俳句

この度は、津市長賞という大賞を賜り、又、朗々たる吟詠にはかかってない感慨無量を覚えました。ありがとうございます。私が一番可愛いがっていた、姪の死から一年、その姪の残した娘が大学卒業、その準備というので、私も同行しました。数ある衣装の中に、深緑と黄緑のグラデーションしかもワンポイント刺繍は董「わあっ素敵これならお母さんもきつと気に入ってくれる筈」そう決めた直後の事でした。コロナにより卒業式の中止を知らされたのです。この俳句には、私の中に複雑な思いが詰まっていますだけに、受賞の喜びはひとしおです。たぶん、若くして旅立った姪が、導いてくれたのでしょう。そんな気がして…。

#### 短歌

この度、第五回齋藤拙堂顕彰短歌の募集に応募いたしましたところ、思いがけず市長賞という栄を賜り、大変光栄に思っております。

応募いたしました短歌は、津藩の教育に大きな功績を残した齋藤拙堂が、晩年を過ごした茶磨山荘から眼下に望む安濃川を日々眺めたであろう、と思いを馳せ詠んだものです。

本年三月二十一日には、第五回齋藤拙堂顕彰吟詠大会で市長賞の表彰を受け、また、短歌の吟詠をしていただきました。吟詠では静かな会場に朗々とひびく一字一句が心に沁み、大きな感動をいただきました。そして同時に齋藤拙堂の息づかいを身近に感じるひとときとなりました。齋藤拙堂顕彰会の皆さまには心より御礼申し上げます。

# 第四回齋藤拙堂顕彰

## 小中学生書道展

理事 稲垣 武嗣

前年度の「新型コロナウイルス発生・大感染」という異常事態が尾を引き、今回の「小中学生書道展」をどうすべきかと担当者及び役員で再三検討した結果。ともかく展覧会だけは開催し、表彰式は再度検討しようと言ったことになりました。そして、展覧会開催間際になって、やはり表彰式は感染防止を第一と考えやむを得ず中止とすることになりました。出品して頂いた生徒さんのもとより、指導に当たられた先生方、保護者の方々には大変ご迷惑をお掛けしました事に心よりお詫び申し上げます。

しかし、展覧会の方はこのよ  
うな異常事態の中  
でも、幸いなこ  
とに昨年の第三  
回展より一八〇  
余点も多い五  
八四点もの出品  
を得、会期中の  
鑑賞者も三百人



を超える盛大な展覧会が開催出来たことは拙堂会として望外の喜びでした。入賞されたほとんどの方には会場で賞状・副賞を渡し、ご都合のつかなかった方には郵送等でお届けしました。入賞者の方は後記のとおりです。

尚、来年の第五回展は令和四年三月四日(金)から六日(日)の日程で開催する予定ですので多くの方の応募を期待しています。

最後になりましたが、今回の展覧会において拙堂会会員はもとより、役員・展覧会担当者・の皆様には時世柄大変出にくい時期に、展示準備、会場当番、搬出後片付け等に格別にご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

### 入賞者(敬称略)

#### 小学生の部

##### 津市長賞

大西 可純 津市立新町小学校六年

##### 津市議会議長賞

宮武 百花 津市立西が丘小学校五年

##### 津市教育委員会教育長賞

大矢 達城 津市立南が丘小学校二年

### 中日新聞社賞

渡邊 真央 鈴鹿市立庄野小学校三年

丸山 江子 津市立南が丘小学校四年

鈴木 莉乃 津市立新町小学校五年

平手 綾華 津市立立成小学校五年

河口 綾香 津市立片田小学校六年

### 齋藤拙堂顕彰会会長賞

赤尾 優衣 津市立豊ヶ丘小学校一年

辻村 宗真 玉城町立玉城小学校一年

藤田真由美 津市立新町小学校二年

松岡 愛莉 津市立立成小学校二年

玉置さくら 鈴鹿市飯野小学校三年

西岡 美月 松阪市立徳和小学校四年

桑名 佑京 三重大学教育学部附属小学校四年

大野 彩礼 松阪市立掃水小学校五年

前川 愛結 津市立豊が丘小学校四年

紀平 晴大 津市立立成小学校六年

遠山 大智 津市南が丘小学校六年

### 特選

内田 汐音 松阪市立掃水小学校一年

石垣 紗彩 鈴鹿市立玉垣小学校一年

岡田 紗奈 鈴鹿市立玉垣小学校一年

倉島 寿芽 津市立西が丘小学校二年

宮田 羽留 津市立片田小学校二年

石原 七 津市立新町小学校二年

中学生の部

津市長賞

倉島 沙空

津市立橋北中学校二年

- 駒田 好奏 津市立豊が丘小学校二年
- 日名子陽葵 津市立千里ヶ丘小学校二年
- 鎌田 千晴 鈴鹿市立清和小学校三年
- 石谷 歩美 津市立千里ヶ丘小学校二年
- 松本 芽依 松阪市立掃水小学校三年
- 松村 百葉 松阪市立山室山小学校三年
- 大川 奈々 松阪市立第五小学校三年
- 芦川 凜音 鈴鹿市立玉垣小学校三年
- 馬場あゆな 鈴鹿市立玉垣小学校四年
- 村田 樹仁 松阪市立第五小学校四年
- 坂本 朱嶺 津市立安東小学校四年
- 日名子陽愛 津市立千里ヶ丘小学校四年
- 横山 陽菜 津市立立成小学校五年
- 豊田 彩葉 松阪市立徳和小学校五年
- 藤本 真那 津市立養正小学校五年
- 松本 実華 津市立櫛形小学校五年
- 長谷川結都 松阪市立天白小学校六年
- 一色 咲良 津市立豊津小学校六年
- 真川 翠 津市立村主小学校六年
- 増田 朱莉 津市立豊が丘小学校六年

津市議会議長賞

大浦地美月 私立三重中学校二年

津市教育委員会教育長賞

小寺 冬馬 明和町立明和中学校三年

中日新聞社賞

中川 友梨 津市立朝陽中学校二年

齋藤拙堂顕彰会会長賞

- 松本 朱理 津市立西郊中学校一年
- 森田 瑚都 松阪市立鎌田中学校一年
- 小野 花華 津市立西郊中学校二年
- 地主 怜央 松阪市立久保中学校二年
- 松島 理子 津市立西橋内中学校二年
- 日置 怜奈 津市立久居中学校二年
- 西村 花梨 松阪市立東部中学校三年

特選

- 金田真椰人 私立高田学苑中学校一年
- 木谷 綾葉 松阪市立東部中学校一年
- 中北 和花 津市立南が丘中学校二年
- 岩崎 優 私立高田学苑中学校二年
- 鈴木 結蘭 松阪市立東部中学校三年

第五回 齋藤拙堂顕彰俳句・短歌

齋藤拙堂顕彰の

俳句、短歌の応募者は俳句二十八名、百二十句、短歌十六名五十一首であった。十二月二十四日選考会の結果、次の作品俳句十四名、短歌十一名が選ばれました。表彰式は三月二二日、詩吟朗詠会とともに津市中央公民館の会場で行われました。



俳句の部

山崎 満世選

津市長賞

卒業式なく袴の裾に咲く刺繍

津市 冨永 加代

選評 卒業式のために用意した袴の刺繍だけに美しく大輪の花が咲く。コロナ禍の世相を捉えて胸を打つ。この句は切り取り方が大胆で新鮮。

津市議会議長賞

拙堂の詩歌流れて夜冷ゆる

津市 勝真 千代

選評 清澄な詩吟の声と夜が相まって拙堂への

思いが深まる。夜冷ゆるの季語はしみじみとあたりにも沁みてゆく。

津市教育委員会教育長賞

街道の行く手に秋の峰走る

津市 内田 成子

選評 津市の歴史は深くあまたの街道が残されて

いる。その街道は澄み渡った連峰の勇姿へと連なっている。大景を捉えた句。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

明日へ夢入徳門の冬木の芽

津市 青木千恵子

選評 世がどんなにすさんでも、人の世の徳、学

問はその救いになるはず。冬木の芽をみていると疫病の世であったが、希望に満ちているようだ。

佳作

拙堂の門人のごと新松子

津市 小寺 博

銀杏散る折目正しき主従の墓

津市 木下 郁子

拙堂の墓所より樹間街小春

津市 福島 鎮子

寒松院戦禍まぎまぎ八月尽

津市 井村久仁子

岩田川古式泳法見て御慶

津市 西沢 博子

紅梅の香をのせ雨の一雫

津市 西川 幾子

銀杏散る大地に黄金還しつ

松阪市 瀬川 友子

城垣に育つものの芽子らの声

津市 湯浅 重好

灯下親しむ掛け軸の滲み濃し

津市 種田 啓子

比佐豆知の丘に拙堂春の海

津市 宇野 克弘

短歌の部

津市長賞

拙堂が庭ゆ望みし安濃川

津市 山口久美子

選評 津の地を愛した拙堂は安濃川を朝夕ながめた

ためたであろう。流れは大海へとそそぐ。あたかも拙堂の業績が大きく広がっていったように。

三芳 公子選

津市議会議長賞

命綱つけて城垣守る人腰の

竹箆烏瓜三ツ

津市 井村久仁子

選評 城垣に這うカラスウリの朱の実を籠に入れた

作業する人も、その情景を詠んだ作者の目も優しい。

津市教育委員会教育長賞

拙堂の著書を好んだ七き父の

蔵書に挟みし落葉の葉

大津市 森永 昌雄

選評 拙堂の著書を好み学をよくした父上への

敬慕の思い、蔵書にみつけた落葉の葉に父の人柄をしのぶ。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

伊勢の地に心をすえて拙堂の

内外見すえるまなこのひかり

伊賀市 世古 浩

選評 常に伊勢の地にあつて藩の文教に尽くし広

く内外に眼を向けた拙堂の炯眼をたたえた。

佳作

境内の桜に墓を守られて

藤堂家累代静けさの中

津市 駒田 典子



信長の母なる御前名刹に

眠られおるも安濃津の歴史

津市 岡 公一

春日さす寺の縁さき雛あそぶ

子らに声かけお参り済ます

津市 奥山 功

霜月の暗れたる伊勢路を踏みしめて

神宮めぐし走る若人

津市 山下 幸子

風さそふ城垣に立ちながむれば

桜しべ降る入徳門に

津市 種田 啓子

月かげのいまだ浅き夜石碑には

拙堂しのび一匹の虫

津市 桶田 由美

学窓を菓立ちて群るる若人の

胸はりて行く若葉の城跡

津市 西沢 博子



### 第五回齋藤拙堂顕彰吟道大会開催

令和三年三月二十一日(日)津センターパレス二階の中央公民館に於いて、第五回齋藤拙堂顕彰吟道大会が、主催・津市吟剣詩舞道連盟共催・津市、後援・齋藤拙堂顕彰会によって開催されました。

昨年度はコロナ感染症予防の為、急遽中止となりましたが、今回も無観客の大会とはなりません。前葉泰幸津市長他来賓の方々にご出席賜り、ご挨拶の後、俳句・短歌の表彰が行われ、選者講評ののち受賞八作品が朗詠されました。

受賞者の方からは、作品が朗詠で披露されたことに変感激を受けて戴きました。

大会は加藤龍宗先生企画構成による「四季の喜び(拙堂の花の詩を詠う)」という構成吟に始まり、会員の吟詠・舞が演じられ盛会裏に閉会致しました。

### 令和三年度拙堂会総会報告

新型コロナウイルスの感染防止対策として、皆様の健康安全を図ることを最優先に考え令和三年度の総会の議題は、書面による審議としました。

議題の賛否は五月十二日に集計のところ、各議題は賛成多数で承認可決されました。以下、

これを要約して報告します。

### 令和二年度事業報告

1. 拙堂會報発行

七月一日 第八号発行

十二月一日 第九号発行

2. 齋藤拙堂顕彰出張講座の実施

新型コロナウイルス感染防止対策のため実施できませんでした。

3. 拙堂塾の開催 (講師 齋藤正和)

場所 橋北公民館

第十回 閲庫余録その二 九月二十三日

第十一回 拙堂の師友と門人 十月二十五日

第十二回 拙堂を知ること 十一月二十九日

4. 齋藤拙堂顕彰会「第五回俳句・短歌」の募集

(十月一日～十二月十日)

本紙 7～10頁をご参照ください。

5. 齋藤拙堂顕彰会「第四回小中学生書道展」

作品募集 (十二月二日～一月十九日)

本紙 6～7頁をご参照ください。

6. 作品展示会三月十二日～十四日、表彰式は新型コロナウイルス対策のため中止となりました。

齋藤拙堂顕彰第五回吟道大会と俳句・短歌の表彰式は三月二十一日開催いたしました。

俳句・短歌の入賞作品が吟詠されました。

7. インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」を更新しました。

8. 齋藤拙堂著作の漢文・漢詩・古文の翻訳事業は、事業担当者を選任いたしました。

新

型コロナウイルス感染防止対策から活動で  
きませんでした。

9. 会員増強については、事業の拡大・新規事  
業の取組等必要な資金調達を目的に会員の  
増強に取り組みましたが、新型コロナウイルス  
感染防止対策から積極的な活動はでき  
ませんでした。

令和二年度決算報告及び監査報告

決算報告 収入合計 八〇四、二七七円

支出合計 八〇四、二七七円

事業費四一二、六五四円

運営費一〇七、〇七〇円

繰越金二八四、五五三元

監査報告 会計は適正に処理されている。

監事 國分昭男・米田堯光

令和三年度事業計画

1. 拙堂會報発行

六月一日 第十号、十二月一日 第十一号

2. 齋藤拙堂顕彰出張講座の実施

3. 拙堂塾の開催

4. 齋藤拙堂顕彰会「第六回俳句・短歌」の募  
集期間

令和三年十月一日（金）

十二月十日（金）頃

5. 齋藤拙堂顕彰会「第五回小中学生書道展」  
作品募集

令和三年十二月一日（水）

令和四年一月十五日（土）頃

書道展

令和四年三月四日（金）

三月六日（日）リージョンプラザ

6. 齋藤拙堂顕彰第六回吟道大会と俳句・短歌  
表彰式

令和四年三月下旬頃

場所 中央公民館ホール

7. インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホーム  
ページ」の更新

令和三年度予算

収入合計 一、一四〇、五五五円

支出合計 一、一四〇、五五五円

事業費六二五、〇〇〇円

運営費一九〇、〇〇〇円

繰越金三二五、五五五円

会員の増強に関する件

事業の拡大・新規事業の取組などに必要な安  
定した資金の調達を目的に、会員の増強に取り  
組みます。目標 団体総数三〇先三十六口、個  
人総数二〇〇人二三三〇口

新規事業 郷土資料館の設立について調  
査研究活動をする

ワーキングチームを結成する

理事・監事役員の改選

任期二年満了による理事・監事を改選しまし  
た。全員再任となりました。

会長 加藤 龍宗

理事長 飯田 俊司

常務理事 安村久仁男（会計）

理事 伊藤 誠司（広報）

稲垣 武嗣（書道展）

小川 直紀（書道展）

小林 貴虎（三重県広報）

種田 真山（総務・企画）

林 朝子（書道展）

常務理事

安村久仁男（会計）

伊藤 誠司（広報）

稲垣 武嗣（書道展）

小川 直紀（書道展）

小林 貴虎（三重県広報）

種田 真山（総務・企画）

林 朝子（書道展）

藤貴 静扇（広報）

水谷 忠文（総務）

山崎 満世（俳句）

澤口 真理（漢文翻訳）

村主 英明（津市広報）

高岡 弘典（漢文翻訳）

田矢 修介（津市広報）

監事

國分 昭男

米田 豊山

選者

三芳 公子（短歌）

前葉 泰幸

伊藤 歳恭

齋藤 正和

中川 禎一

齋藤拙堂顕彰会ホームページを  
ご利用下さい。  
下記QRコードからアクセスで  
きます。

ホームページURL

http://setsudo.jp/

